

暮らしやすい大阪へ

～副首都大阪構想 × 暮らしの質 × 経済性～

(阪南大学Bチーム)

なぜ“コスト面”に注目するのか

- 副首都化に必要なのは「**安心して暮らせる都市**」
- 経済的根拠に基づいた“**住みやすさ**”の提示が鍵
- コスト面は「**数字で示せる説得力**」+「**心理的安心**」を
両立

世界からの評価

英エコノミスト誌「世界の住みやすい都市ランキング」
2024
→ 大阪は世界第9位

高評価の理由

- ① インフラの充実度
- ② 医療・教育・交通の安定性
- ③ 生活コストが適正で高品質

出典: The Economist Intelligence Unit “Global Liveability Index 2024”

①インフラの充実度

具体例

- 交通ネットワークが高密度
- ICTインフラ(Wi-Fi・5G整備率)は全国上位

期待効果

- 移動効率・物流効率の高さが「**生活の質**」と「**コスト低下**」
両方を支える

②医療・教育・交通の安定性

- ・医療：大阪府内に国公立・私立病院が密集
(全国2位の医療機関数)
- ・教育：大学・専門学校が多く、学びの選択肢が豊富
- ・交通：地下鉄・私鉄の運行本数が多く、ダイヤ乱れが少ない

③-1生活コストが適正で高品質(基礎支出)

	家賃 (ワンルーム)	定期代	光熱費 (単身)
東京	約88,000円	約5,000円	約17,000円
大阪	約60,000円	約3,400円	約11,700円
東京-大阪	28,000円	1,600円	5,300円

東京よりも家賃・光熱費・交通費が**2～3割低い**

③-2生活コストが適正で高品質(交通費)

- 大阪メトロ定期券(1区間・1か月)3,430円
- 私鉄各社の競合により、**運賃が全国主要都市で最も低い**
- 電車通勤者の比率が高いが、距離が短く・運賃単価が安い
→ 通勤・通学にかかる費用が**東京の約8割程度**

③-3生活コストが適正で高品質

外食文化の発展で「安くて美味しい」文化

→サービス・品質は全国トップクラス

”Affordable Quality”(手頃で高品質な都市)

海外から見た大阪1

対象

訪日外国人150名(欧米・アジア圏)

実施

関西国際空港
道頓堀
大阪城

方法

対面ヒアリング
(2025年9月実施)

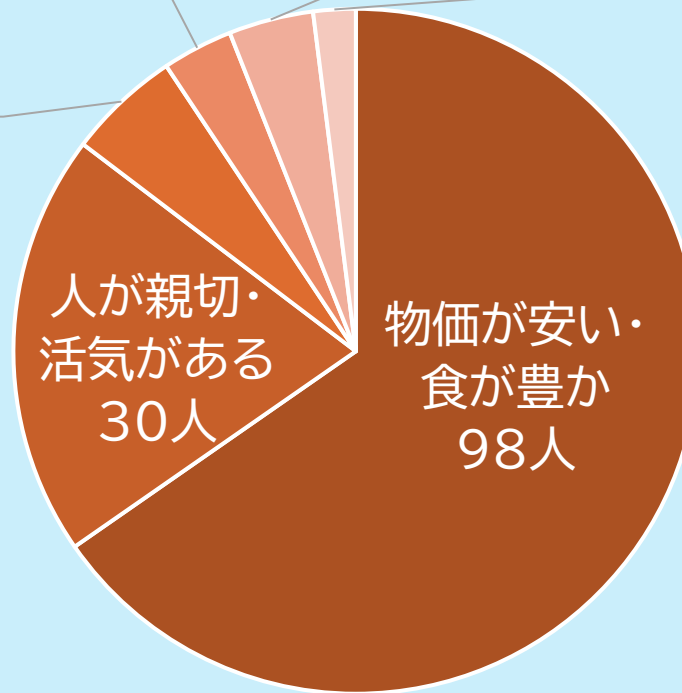
欧米圏からは「**食事のクオリティと
価格の バランス**が信じられない」
という驚きを示す声

大阪の魅力は？

京都や奈良など。他地方へ
のアクセスが良い
5人

歴史的な場所や、独
自の文化が魅力的
8人

都市としての清潔感
6人
その他
3人



海外から見た大阪1 大阪の魅力は？

国籍/年齢/性別	コメント
アメリカ/24歳/女性	留学で日本に来たけれど、東京より大阪のほうが断然住みやすい。安くて 美味しいご飯がSNS映え するし、友達と割り勘しても全然負担にならないのが最高！
イタリア/27歳/男性	レストランのクオリティが本当に高い。 イタリアンやフレンチも安くてレベルが高く 、食への情熱が都市全体に満ちていると感じた。
オーストラリア/50代/女性	物価が高いシドニーから来たから、何を食べても安く感じる。新鮮な魚介が手頃で、 生活基盤としての食費の安さ に魅力を感じた。
カナダ/32歳/男性	道に迷っていると、すぐに地元の人に人が声をかけてくれた。英語が苦手でも、 ジェスチャーや笑顔で助けてくれようとする優しさ に感動した。
フランス/27歳/男性	活気があるといっても、ただうるさいわけではない。 街のエネルギーがポジティブな方向に向かっているのが感じられた 。これが大阪の魅力だろう。

海外から見た大阪2

対象

訪日外国人150名(欧米・アジア圏)

実施

関西国際空港

道頓堀

大阪城

方法

対面ヒアリング

(2025年9月実施)

考察

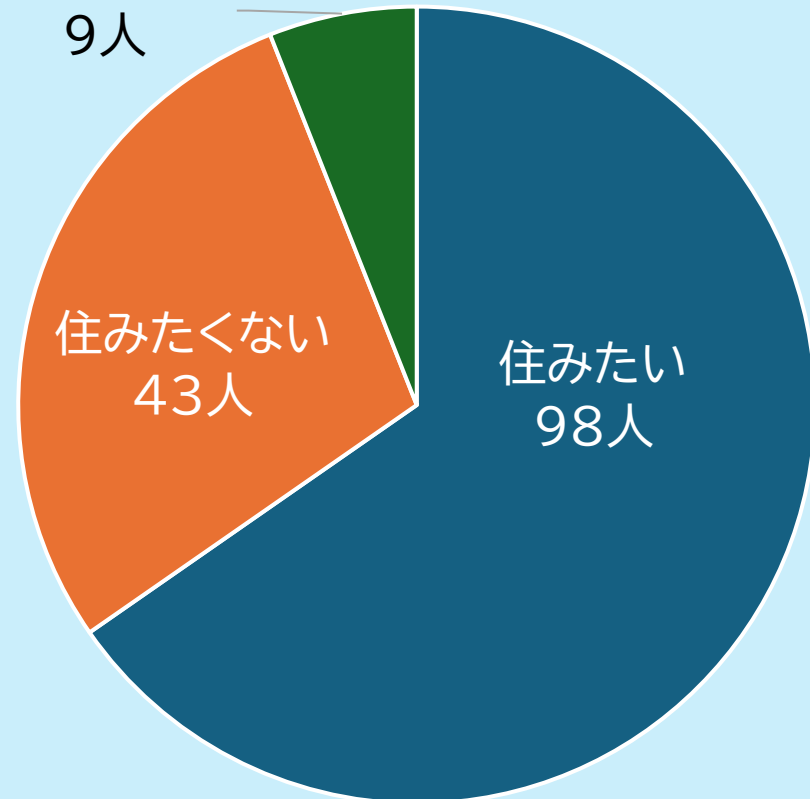
“Affordable and Friendly City”

として高い好感度

→ 価格と生活の質のバランスが評価されている

大阪に住みたいか？

どちらでもない
9人



海外から見た大阪2 大阪に住みたいか？

国籍/年齢/性別	コメント～住みたい編～
オーストラリア/38歳/女性	旅行中、 物価の安さと生活の質の高さ に驚いた。シドニーでの生活と比べて、経済的な負担がずっと少なく、もっと豊かな生活ができそうだ。
韓国/25歳/男性	エンターテインメントやショッピングが充実しているのに、東京ほど窮屈ではない。 都市機能とリラックスできる雰囲気 が両立しているから、仕事と生活のバランスが取れそうだ。
アメリカ/42歳/男性	ビジネスチャンスを探しているが、 大阪は東京に比べて企業のコストが低く、しかも人々の距離感が近い 。新しいコミュニティを作りやすいと感じた。
ベトナム/22歳/女性	大学を卒業したら、ここで働きたい。アルバイトや外食の費用が安いので、 生活の立ち上げがしやすいと感じる 。食の豊かさも大きな魅力だ。
ドイツ/55歳/男性	定年退職後の移住先として考えている。 医療や交通のインフラが整っているうえに、人々のフレンドリーさが安心感につながる 。ストレスなく暮らせると思った。

海外から見た大阪2 大阪に住みたいか？

国籍/年齢/性別	コメント～住みたくない編～
カナダ/30代/男性	英語が通じない場所が多いと感じた。観光するだけなら問題ないが、住むとなると言語の壁がネックになる。
韓国/20代/女性	東京に比べると、最新のファッションやトレンドの発信力が弱い気がした。若者向けのエンタメやイベントも、東京のほうが圧倒的に多い。
インド/45歳/男性	企業の本社や、グローバル企業のアジア拠点はやはり東京に集中している。キャリアアップの機会を考えると、少し躊躇してしまう。
ドイツ/50代/女性	街の活気は素晴らしいが、夜の道頓堀や新生会周辺の雑然とした雰囲気、長期的に住むには少し落ち着かないと感じた。
フィリピン/28歳/女性	台風などの自然災害のニュースを時々聞くので、地震や水害への対策について、住む前に詳しく知っておく必要があると感じた。

大阪は可処分所得が低い

- 可処分所得とは = 収入 - 税金・社会保険料
→ **生活のために使えるお金** / 手取り

	可処分所得	基礎支出	可処分所得-基礎支出
東京	392,716円(12位)	199,372円(1位)	193,343円(42位)
大阪	352,220円(35位)	161,651円(6位)	190,569円(44位)

東京と大阪では自由に使えるお金がほとんど変わらない

大阪は数値以上に住みやすい理由

- 交通網・商業施設・医療・教育が都市圏に集中
- コミュニティ文化が強く、人とのつながりを感じやすい
- 災害リスクも比較的低い
- 食品安全基準・医療水準とともに全国トップクラス
- 都市再生(うめきた・中之島プロジェクト)で景観・衛生面が大幅改善

出典:総務省「生活満足度調査2023」(内閣府防災情報 2023)

心理的・金銭的余裕の効果(まとめ)

経済的余裕 → 趣味・学び・貯蓄に回せる

行動範囲の拡大 → 通勤・外出がストレス減少

心理的安定 → 定住意欲の向上

地域経済の循環促進 → 地元商店・企業の活性化

副首都化に向けた提案

- 「生活コストマップ」整備で情報を可視化
- 地域資源の保全(商店街・市場の維持)
- 若者・移住者支援: 家賃・交通費・光熱費補助
 - 安さと快適さを両立した“暮らしのブランディング”

生活コストマップ整備で情報を可視化

目的

- ・ 移住検討者・企業の判断材料

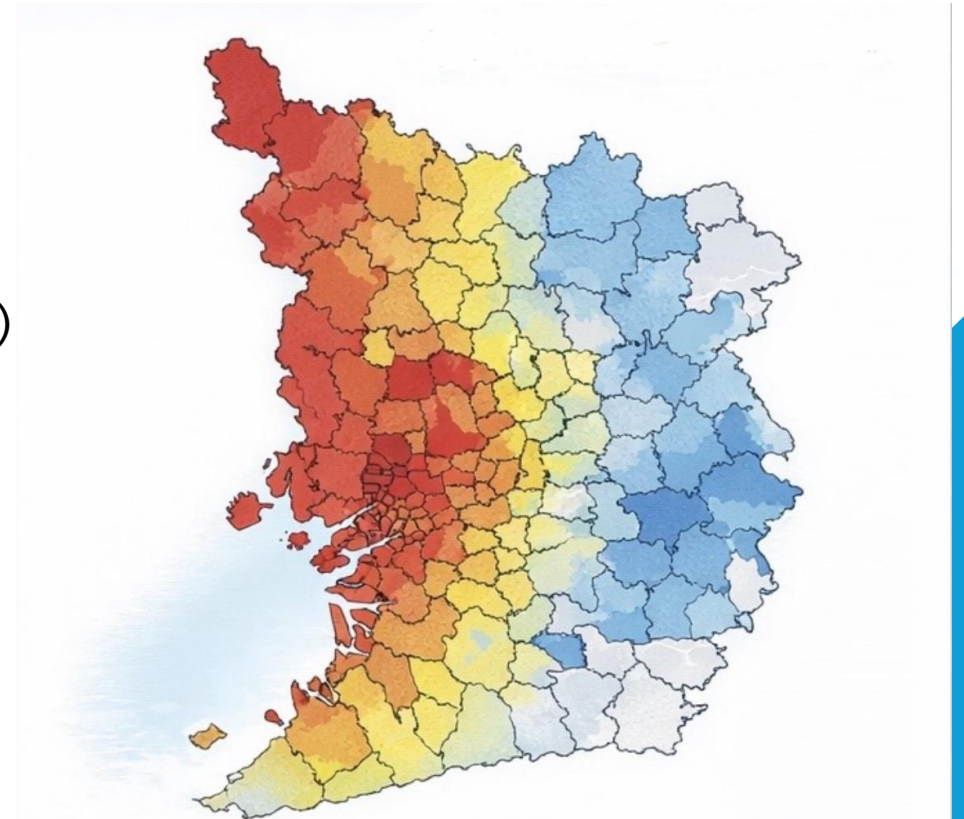
内容例

- ・ 家賃、光熱費、交通費、食費などを地域別に地図上で表示
- ・ オープンデータと連携（総務省家計調査、市区町村統計など）
- ・ 若者・転入者向けにアプリ化し、住環境を比較できるようにする

期待効果

- ・ 「安さと質の見える化」により、副首都としての信頼性アップ

作製例



地域資源の保全(商店街・市場の維持)

目的

- ・大阪らしい生活文化と経済の両立を実現

内容例

- ・空き店舗を若者・起業家向けに再活用
- ・地域ポイント制度やデジタルスタンプラリー導入
- ・観光客と地元住民の接点を増やすイベント運営

地元経済の循環強化+「大阪らしさ」のブランド維持

若者・移住者支援：家賃・交通費・光熱費補助

目的

- ・定住促進と人口流出防止

内容例

- ・若年層・リモートワーカー向け住宅補助制度
- ・通学・通勤定期の助成金、光熱費割引の導入
- ・企業と自治体の協働による「生活支援パッケージ」

若者の大阪定着、働き方多様化の推進、副首都としての居住魅力向上

まとめ

- 大阪は“安い”のではなく“効率的で豊かな都市”
 - 数値的にも心理的にも「暮らしやすさ」が裏付けられる
 - 海外が評価するのは「コスパ × 文化 × 人情」
- 副首都大阪への実現には、この強みの維持と発信